

実行委員長からのごあいさつ



実行委員長

野田 光彦

平成18年と19年の厚生労働省による国民健康・栄養調査の結果では、それ以前で最も近い調査である、平成14年の、同じく同省による糖尿病実態調査に比較しても、糖尿病とその予備群と考えられる人は大幅に増加しています。また、世界的にみても糖尿病患者数の増大は、殊にアジア地域において爆発的なものがあり、この憂うべき現状からは、今世紀はまさに糖尿病の世紀であることを予感させるといっても過言ではないでしょう。

わが国では近年、糖尿病によって年間約1万5千人がお亡くなりになり、糖尿病による腎症で同じく年間約1万5千人が人工透析を開始し、また、年間約1,000人に糖尿病による高度の視力障害（失明など）が発生しています。すでに糖尿病にかかっている人がこのような合併症を起こさないようにするためには、血糖値などに注意しながら生活習慣を適切に保つ必要があります。

同様に、糖尿病ではない人にとっては、糖尿病そのものの予防が重要視されるでしょう。糖尿病の大きな部分を占める2型糖尿病の発症は、人によって

その程度は異なりますが、生活習慣によって左右されます。生活習慣に注意することによって、糖尿病を予防できる割合は高まるのです。

本日の市民セミナーでは、前半の第1部では、ご自身の糖尿病をコントロールされ、栄養に関するご研究のご業績が深い国立健康・栄養研究所理事長の渡邊 昌先生と、糖尿病の専門医でいらっしゃる日本糖尿病財団理事長の金澤康徳先生に、糖尿病の治療と薬剤との関係についてお話し頂きます。

後半の第2部では、国立国際医療センターの安田和基先生、早稲田大学の福岡秀興先生、大阪大学の磯博康先生に、それぞれご造詣の深い、糖尿病と遺伝、育ち、生活習慣との関係についてお伺いいたします。

糖尿病や糖尿病の治療は決して特殊なものではありません。いたって身近なものです。本日の先生方によるお話が、皆様方にとって「糖尿病の世紀を生き抜く！」ための大きな力となれば、それは、本日のセミナーを企画させて頂いた実行委員長として、心からの喜びであります。

